

ヒナカマキリ *Amantis nawai* (Shiraki)

【選定理由】

本種は、主に安定した常緑広葉樹林に生息するが、小型かつ微翅のため移動能力は小さい。生息地の小さな環境変化にも敏感に反応しやすく、生息地の分断により当該個体群が孤立し除々に消滅する危険性が高い。

【形態】

日本産カマキリ目のうちでは最も小さな種類。体長は♂12~15mm、♀13~18mm。♂・♀ともに翅は小さく鱗片状。体は褐色で全体に暗褐色斑点があり、個体によっては全身が黒く見えるほどに発達する。胸・腹部背面の正中線に沿っては暗色条となる。前脚は特に太く頑丈で獲物を捕えるための捕獲脚となっている。

一般にカマキリ目の種類は同一種内で「緑色型」と「褐色型」の両方が見られるが、本種では「緑色型」の記録はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

南方系の種類であり、渥美半島・知多半島地域から知られているが、内陸部では豊田市猿投山山麓からも記録されている（岡田, 1987；田中, 1986）。

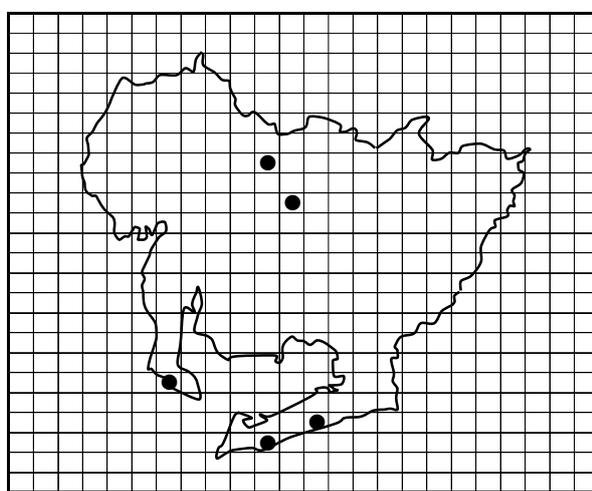
【国内の分布】

本州以南、琉球列島沿いにその最西端の与那国島まで分布する。地域により、♂は普通に生息しているらしい。

【世界の分布】

台湾（ここでは長翅型個体も記録されている）、中国。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

主として常緑広葉樹林の林床もしくは林床の低木上やシダ植物上などで活動する。沿岸地のタケ・ササ林内や松林内などでも見られる。木漏れ日が射すような林内で、風通しの良い割に林床に湿気のあるような環境を好む。

本種の餌の捕獲形式は「待伏型」だけでなく、獲物を積極的に追いかける「追尾型」も普通に見られる。

【現在の生息状況／減少の要因】

本種は、一般的な蒐集の対象とはなっておらず、採集による減少は認められない。地域整備など開発のため生息地が減少・分断され、環境状況は悪化しつつある。

【保全上の留意点】

本種は、小型でありかつ飛ぶことができず移動能力に乏しい。したがって「小さな開発」であっても大きな悪影響を受ける可能性が高い。生息記録地点のみならず、それに隣接する環境も一体として保全する必要がある。

また、知多半島と渥美半島の既知生息地は畑地に隣接しており、農薬などの流入にも注意が必要である。

【引用文献】

- 岡田正哉, 1987. ヒナカマキリの愛知県内での分布. 佳香蝶, (150): 27.
田中 番, 1986. 豊田市におけるヒナカマキリ 2 種の記録. 佳香蝶, 38 (147): 46.
中峰 空, 2016. カマキリ目. 日本直翅類学会 (編), 日本産直翅類標準図鑑: 46,199-200. 学研プラス, 東京.

【関連文献】

- 岡田正哉, 2001. ヒナカマキリ. 昆虫ハンター カマキリのすべて: 46-47. トンボ出版, 大阪市.
山崎柄根, 1981. 日本産ヒナカマキリについて. Mem. Natn. Sci. Mus., Tokyo, (14): 95-102.

(水野利彦)